

VISION NEWS Vol.7



SEARCHING FOR THE FUTURE VISION
TRIGGER NEWS No.31~35

【推奨環境】

この E-book 上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

この E-book は著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

この E-book の著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、この E-book の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

この E-book の開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

この E-book は秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

この E-book に書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

この E-book の作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

この E-book を利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

INDEX

- 1・思考のオートメーション化
- 2・未来サービスプランナー
- 3・急がない未来
- 4・小型衛星ネットワークサービス
- 5・仮想プロダクトサービス

#31 思考のオートメーション化

サービスのコモディティ化にともない、新しい価値が求められるようになってきました。現在はスマートフォンにみられるようなハードウェア端末のコモディティ化が進み、インターネットなどの接続やコミュニティへの接続サービスが主におこなわれ、アプリケーションのダウンロードによるサービス供給がされています。

インフラという形は接続サービスから、能力を引き延ばすインフラとなって新しい創造を生み出す機能に変容するかもしれません。創造を生み出す“種”は、アイデアや思考にみられる人間発創造コンテンツであり、それらを簡単に接続、組み合わせやビルドアップできるツールが益々増えてくるでしょう。

ここで能力とは、コミュニケーション力の他に、想像力、組み立てる力、俯瞰力、ストーリー力などです。このようなサービスデザイン力は従来とは多少異なり、より上位層でのクリエイティブサービスかつ俯瞰的なセンスで稼ぐ目線をもった能力が必要になってくるでしょう。IT、WEB ノウハウを身に着けた若者たちや起業経営者は稼ぐという視点から未来を考えた時、さまざまな視点・思考で広げ自動化までを視野に入れてビジネスを考えます。

ビジョンは資金を獲得するための新しい装置であり、AIはそれらを的確に審査するインデックス機能となるでしょう。創造コンテンツはサービスコモディティの上位層に位置、従来のサービスインフラは創造コンテンツをつくりあげる為のエコインフラとなりかわります。

サービスをハードウェア実装できる時代は可能になっていましたが、未来ビジネスへの演出実装と組み立て、サービス実装をおこなっていませんでした、その分野において新しい創造インフラを活用したサービスイノベーター達が提供する未来ビジネスは視点が変わる良いタイミングではないでしょうか？

また、AI エッジデバイスが普及すると、コンテンツそのものを認識・推論する能力が上がり、それを次のビジネスヘリッドさせるきっかけを生成します。未来のビジネス領域を推論してコンテンツを生成するエンジンは、人間と AI の協創でつくられプログラマブルプロセスにあった形で自動配信実行されていくでしょう。未来知のオートメーションと AI 端末の融合です。

#32 未来サービスプランナー

生命保険などのライフプランナーや災害保険、火災保険は日常生活に保険、つまり安心という形に変えてサービス提供されています。これからは、投資とは異なる、期待や疑似体験という新たな形でサービスが提供されるかもしれません。

車や服を購入する際の色や形を決めるのも、広く捉えると未来サービスと言えます。現在から先のもの（安心や形）を販売していく行為は、日常の生活において浸透しています。

未来イメージやソリューションを現在へ販売するスタイル（期待や形以外）は、仮想空間などのリアルとデジタルを繋ぐハイブリットマーケットにおいて、クリエイティブ+想定ビジネスという形で進化するでしょう。仮想現実におけるコミュニケーションや体験は新しい働く空間や選別と集中、感性力を鍛えます。そこで生まれるものは、成長サービスの組み合わせを現在に提案する新しい“種”になります。

成長サービスの組み合わせとは、どのようなイメージでしょうか？ひとつは仮想空間技術によるビジュアル化と思考の拡張により、現実世界と時間、組織の制約を受けずにユニークな意見交換から生まれる組み合わせです。もうひとつは、プロダクトイメージや顧客期待を利用した情報インダストリでのサービスができることです。これらは、新しい産業を生み出し、成長にリンクします。未来からのメッセージを受け取ることを事業やビジネスに取り入れる時代です。今後、AI によるコンシェルジュサービスのようなサービスが進化すると、もはや生活に AI は自動インフラサービスとして欠かせない機能になるでしょう。

AI マーケットは人間が作りあげてきたものより、高速に進化、統合、整理さ

れはじめ、人々はそれを効率というサービス対価のかわりに創造対価を失う可能性があります。あらゆる生活判断が自動になれば、人間は成長しなくなります。効率と創造の中間地点にある現在において、未来サービスプランナーの持つ役割は大きくなるでしょう。

#33 急がない未来

学習とビジネス開拓の融合、境界がなくなりダイレクトになってきています。必要な知識は、個人の人生その時々において異なるでしょう、時間や経験において吸収され身につく経験知というものもあります。

しかし、知識も現在では、インターネットなどのweb学習コンテンツサービスにおいては、必要な学習を必要な時に受けて知識を広げることができます。未来や創造領域へのビジネス開拓も学習をおこなうことで新しいビジネスのヒントや開発がダイレクトにできるようになりました。つまり、学習が未来開発になっています。

例えば、大学の教授、ソフトに詳しいプログラマーが自身のスキルを教えながらサンプルソースを公開し、ビジネスリードできる環境を整えます。もちろん会社やメインのミッションとは異なるところでのサブビジネスです。ところが、このサブビジネス、実はメインビジネスに移行してきています、本人が創造的な分野に気づいて、自身のスキルや能力を組織に頼らずに行動し役割を得ているところがポイントでしょう。

このような視点、先行オープンこそが今、求められている時代ニーズでしょう。少し前までは、起業ノウハウや起業家たちの成功ピッチ、テクノロジーベンチャーが主な先行集団でした。これからは、学習しながら新しい社会モデルや動くサンプルをつくり、進化させていく“急がない未来”が必要かもしれません。

そういう意味では、企業とベンチャーの融合は“急ぐ未来”の構図で、“急がない未来”をサステナブル社会や組織システムに組み込んだり、AI評価に組み込んだりすることで結果から可能性へのビジネスにシフトさせることができるかもしれません。

“急ぐ未来”の構図では資本構成とリターンが短期であるのに対して、“急がない未来”では資本構成を長期にし、成長につながる学習と緩やかな開拓ビジネスが生まれるので、新しい未来ビジネス選択肢の1つになるになるでしょう。

#34 小型衛星ネットワークサービス

次世代の宇宙ビジネスが成長しはじめています。商用衛星では新しいサービスとしてどのようなことが考えられているのでしょうか？ 通信衛星、GPS、カメラ、気象、リモートセンシングなどでしたが、現在は、宇宙をフロンティアビジネスの一角ととらえはじめ、ロケット開発のみならず、資源開発、食品、工場、遠隔ロボット、商社まで幅広く展開されています。

小型衛星自体もかなり低コストで打ち上げが可能になり、かつ量産をおこなう企業が出始めて、民間における新しいサービスが整い始めています。いわゆる、地球インフラとしての全域インターネットサービス網です。

米国の One Web 社は 2020 年までに通信小型衛星を低軌道上に 700 基配置し、低価格で高速な通信インフラを衛星コンステレーションにて構築する計画です。衛星スタートアップ会社は静止衛星上に衛星インフラを配置するなどして、低コストを実現する計画です。まさに、人工衛星群の覇権争いです。また、これに関連した衛星コンサルティング企業や衛星への遠隔操作をおこなうサービスベンダー、ロボットやドローンとの連携、VR 体験シミュレーションを含めた宇宙サービスインフラが誕生します。

これらの宇宙サービスインフラや小型衛星が加速、量産整備されはじめる、さらに新しいサービスが提供されはじめるでしょう。地球上で生活しているほとんどの人がインターネットにつながることができ、高速リッチなサービスを受けられることができると価値観の共有や創造が簡単におこなえ、テキストメッセージからさらなるリモートビジュアル化が期待されます。例えば、新しいインフラ衛星を通してコンセプトとビジョンデータのアップデート、画像処理をおこない、同じコンセプトの企業や人物にアクセスしたり、仮想化された商品プロモーションや商品データを送信、特定エリアに送信など

が可能になる時代がおとずれるでしょう。また、宇宙映像をリアルに体験することで視点が広がり、俯瞰的なものの見方や新しい技術の発想を生み出す場にフロンティアを活かすこともできるでしょう。

#35 仮想プロダクトサービス

近い将来、作業効率からアイデアを生み出す思考プロセスをAIに組み込むことで、ビジョンから想定する仮想プロダクトのイメージを生成し、VRやホログラム出力できる時代が来るでしょう。

コモディティ化されたAIプラットフォームを利用することで、ビジョンを設定し、個人や企業の思考プロセスをダウンロードし、出力選択すると、どこでもそれにあった仮想プロダクトを見せることができるようになるでしょう。まさに、私たちが映画館で映画を楽しみや若者がスマートフォンで動画を楽しむような感覚で未来社会の企画や新商品企画のプロトタイプを創り出せることができるようになるでしょう。

マーケットやプロダクトを企画するのは、もはや社内の会議室ではなく、仮想プロジェクトやプロダクトイメージを持った思考過程にあり、それらをAI BOT やリアルコミュニティにより生成・合成出力できることが可能となる時代です。

通信インフラの技術の進化、データの自動分類、プレイヤーとネットワーク、ハイブリッドビジネスの拡充、デリバリーの高速化とデジタル化された社会では、ユーザーは契約したデジタルファクトリーにおいて、プロダクトイメージデータ等を送ると簡単に未来社会や企業ビジョンへの仮想商品を造ることも可能になるかもしれません。

仮想とリアルのハイブリットビジネスにおいては、ユーザーへのインフォメーションを与え、ユーザーベースの企画商品は新しいプロダクトへのプロトタイプとなり企画はシェア、オープン化されたものになり、開発は学習成長されるものになり、製造は共通プラットフォームとしてのサービスも選択の1つとなるでしょう。